

DP unit planner 3

Teacher(s)		Subject group and course	日本語A: 文学		
Course part and topic	テキスト間相互関連性 ——テキスト同士はどのようなつながりをもつか——	SL or HL/Year 1 or 2	HL/Year 1	Dates	
Unit description and texts		DP assessment(s) for unit			
<p>本単元では、いくつかの観点に基づきながらテキスト間のつながりを探究することを目的とする。本単元では、テキスト同士の接続を問うことのできる探究として次の二つを想定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 比較・対比による評価: 複数のテキストを比較・対比し、共通点と相違点を明らかにしながら、それぞれの特徴を明らかにする。より具体的に、文学の授業として、文学の探究の問いに基づき、異なる作家によって書かれた二つの作品を比較・対比することで、それぞれの文学作品としての特徴を明らかにする。 グローバル問題と文学: ある一つのグローバルな問題が、全く異なる文化的背景において書かれた作品においてそれぞれどのように表現されているのか探究を行う。 <p>探究の問いの例:</p> <p>・複数の作品の文学的な特徴は何か。(構成や展開の特徴は何か、クライマックスはどのように構成されているか、語りの特徴は何か、登場人物の造形や関係性はどのように構成され、どのような効果をもたらしているか、比喩や象徴の使用はどのように行われ、どのような効果をもたらしているか、等。)</p>		<ol style="list-style-type: none"> Paper 2(学習した二作品の比較・対比。最終試験対策を兼ねる。) Individual Oral(個人口述。生徒が自分で設定したグローバルな問題が、異なる言語、異なる文化的コンテキストで生産された複数の作品においてどのように表現されているか。ただし、生徒に資質・能力がどの程度定着したのかを測るため、この内部評価課題は事前の模擬練習が禁止されているため、今回はアイデアの素描を目的とする。) 			

- ・特定のグローバルな問題は、全く異なる文化的背景において書かれた作品の中でどのように表現されているのか。
- ・文学はグローバル問題に対してどのような／どの程度解決をもたらしているか。

本単元で扱う作品：

遠藤周作『沈黙』、チヌア・アチェベ『崩れゆく絆』

生徒は上記2作品に加え、複数作品の比較・対比とグローバル問題の探究活動においては、既習の以下の作品も参照する。

石垣りん『石垣りん詩集』、ヘンリック・イプセン『人形の家』、有吉佐和子『華岡青洲の妻』、サミュエル・ベケット『ゴドーを待ちながら』、吉本ばなな『キッチン』、上田秋成『雨月物語』、夏目漱石『こころ』、カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』、ジョージ・オーウェル『動物農場』、チョ・ナムジュ『82年生まれ、キム・ジョン』、ヤマザキマリ『望遠ニッポン見聞録』

INQUIRY: establishing purpose of the unit

Transfer goals

List here one to three big, overarching, long-term goals for this unit. Transfer goals are the major goals that ask students to “transfer”, or apply, their knowledge, skills, and concepts at the end of the unit under new/different circumstances, and on their own without scaffolding from the teacher.

- ・複数のテキストを比較・対比し、共通点と相違点を明らかにしながら、それぞれの特徴を明らかにすることができる。
- ・現実に存在するグローバルな問題を、文学作品がいかに描いているのかについて探究することができる。

Essential understandings

List here the key content/skills/concepts that students will know/develop by the end of the unit.

Students will know the following content:

- ・文学作品の明示的な意味(ストーリーや登場人物、出来事等)及び暗示的な意味(主題、寓意、作品そのものの象徴性等)を理解する。
- ・文学作品を探究するための問いに基づくことで、それぞれの作品をどのように探究しうるかを知る。(構成や展開の特徴は何か、クライマックスはどのように構成されているか、語りの特徴は何か、登場人物の造形や関係性はどのように構成され、どのような効果をもたらしているか、比喩や象徴の使用はどのように行われ、どのような効果をもたらしているか等。)

Students will develop the following skills:

- ・思考スキル(比較、対比、評価): 複数のテキストを比較・対比し、共通点と相違点を明確にし、それぞれの特徴について評価することができる。
- ・コミュニケーションスキル: テキスト同士のつながりについて、他者の視点を踏まえ多角的に思考しながら、自身の意見を構築する力を獲得する。
- ・自己管理スキル: 多様な思考を許容する開かれた問いに基づきながら、自身の思考を一から構築することが要求される領域において、適切な時間管理を行うと共に、自己の感情に向き合いながら、一人の探究する者として学習に向き合うことができる。

Students will grasp the following concepts:

- ・パースペクティブ: (観点ほどの程度対象の構成に影響を与えるか。文学では、Paper 2における概念的な問いやIOでのグローバル問題等、複数の観点からの読解によって、テキスト間相互関連性はどの程度多様化するか。教科横断性を考えた場合、歴史における歴史家の立場や理科における観測の問題等へと接続しうる)。

Missed concepts/misunderstandings

List here likely misunderstandings students may have during the unit with relation to skills, content and concepts.

Content-based:

- ・一つのテキストの読解または複数のテキスト間の比較を、歴史的な事実に基づいた作業としてのみ理解すること。

Skills-based:

- ・あらすじ(明示的な意味)や主題の並列を比較・対比として理解すること。
- ・特定の観点に固執し、別の観点が存在しないものと理解すること。

Concept-based:

- ・作品の内在的な読解に終始すること。

Inquiry questions

List here the understandings above written in question form, preferably as ones that inspire students to answer them. Feel free to create additional questions that help inspire further inquiry in the unit but may not directly connect to an above essential understanding.

Content-based:

- ・異なる文化的背景を持った二つの文学作品において、自分が関心を持つグローバル問題はどのように描かれているか。

Skills-based:

- ・他者と協働し、一つの問いまたは課題に対して、どの程度多面的に思考することができるか。

Concept-based:

- ・観点はどの程度対象の構成に影響を与えるか。

ACTION: teaching and learning through inquiry

Essential understanding goals <i>Copy and paste the essential understanding goals from above “Inquiry” section.</i>	Assessment of essential understanding goals <i>Write a 1:1 matching assessment for all goals. Assessments should be labelled formative (F) or summative (S).</i>	Learning process <i>Check the boxes for any pedagogical approaches used during the unit. Aim for a variety of approaches to help facilitate learning.</i>
<p><u>Students will know the following content:</u></p> <p><u>Students will know the following content:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学作品の明示的な意味(ストーリーや登場人物、出来事等)及び暗示的な意味(主題、寓意、作品そのものの象徴性等)を理解する。 ・文学作品を探究するための問いに基づくことで、それぞれの作品をどのように探究しうるかを知る。(構成や展開の特徴は何か、クライマックスはどのように構成されているか、語りの特徴は何か、登場人物の造形や関係性はどのように構成され、どのような効果をもたらしているか、比喩や象徴の使用はどのように行われ、どのような効果をもたらしているか等。) <p><u>Students will develop the following skills:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考スキル(比較、対比、評価):複数のテキストを比較・対比し、共通点と相違点を明確にし、それぞれの特徴について評価することができる。 ・コミュニケーションスキル:テキスト同士のつながりについて、他者の視点を踏まえ多角的に思考しながら、自身の意見を構築する力を獲得する。 ・自己管理スキル:多様な思考を許容する開かれた問いに基づきながら、自身の思考を一から構築することが要求される領域において、適切な時間管理を行うと共に、自 	<p><u>Content-based:</u></p> <p>Paper 2 (S) IO (S)</p> <p><u>Skills-based:</u></p> <p>Feedback (F) Paper 2 (S) IO (S)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> Lecture <input checked="" type="checkbox"/> Socratic seminar <input checked="" type="checkbox"/> Small group/pair work <input checked="" type="checkbox"/> Powerpoint lecture/notes <input checked="" type="checkbox"/> Individual presentations <input checked="" type="checkbox"/> Group presentations <input type="checkbox"/> Student lecture/leading <input type="checkbox"/> Interdisciplinary learning <p>Details:</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> Other/s:

<p>己の感情に向き合いながら、一人の探究する者として学習に向き合うことができる。</p> <p><u>Students will grasp the following concepts:</u></p> <p>・パースペクティブ: (観点はどの程度対象の構成に影響を与えるか。文学では、Paper 2における概念的な問いやIOでのグローバル問題等、複数の観点からの読解によって、テキスト間相互関連性はどの程度多様化するか。教科横断性を考えた場合、歴史における歴史家の立場や理科における観測の問題等へと接続しうる)。</p>	<p><u>Concept-based:</u></p> <p>Paper 2 (S)</p> <p>IO (S)</p>	
---	---	--

<p>Resources</p>
<p>遠藤周作『沈黙』、チヌア・アチェベ『崩れゆく絆』、石垣りん『石垣りん詩集』、ヘンリック・イブセン『人形の家』、有吉佐和子『華岡青洲の妻』、サミュエル・ベケット『ゴドーを待ちながら』、吉本ばなな『キッチン』、上田秋成『雨月物語』、夏目漱石『こころ』、カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』、ジョージ・オーウェル『動物農場』、チョ・ナムジュ『82年生まれ、キム・ジョン』、ヤマザキマリ『望遠ニッポン見聞録』</p>

<p>Approaches to learning (ATL)</p> <p><i>Check the boxes for any explicit approaches to learning connections made during the unit. For more information on ATL, please see the guide.</i></p>	<p>Metacognition</p> <p><i>Check the boxes for any metacognitive approaches used that ask students to reflect on unit content, their own skills, or unit concepts. For more information on the IB's</i></p>	<p>Differentiation:</p> <p><i>For more information on the IB's approach to differentiation, please see the guide.</i></p>
---	--	--

	<i>approach to metacognition, please see the guide.</i>	
<input checked="" type="checkbox"/> Thinking Social <input checked="" type="checkbox"/> Communication Self-management <input checked="" type="checkbox"/> Research Details: 本単元と最も関係の高いATLスキルとしては、思考スキルが挙げられる。というのも、テキストの内容という事実的な理解の水準のみならず、意味生成の過程について反省的な次元での思考が要求されるからである。Bloom’s taxonomyを参照するならば、評価や創造に強く関係する。同様に、複数の観点によるテキストの検証を行う以上、目の前の他者や先行研究の執筆者とコミュニケーションを行うことも要求される。また、批評理論に関しては、敢えて調査を行う機会を提供することで、調査スキルの伸長を図る。	<input checked="" type="checkbox"/> Reflection on content <input checked="" type="checkbox"/> Reflection on skills <input checked="" type="checkbox"/> Reflection on concepts Details: 内容に関する振り返りについては、毎時間授業終了前の10分を用いて行う10分間ライティングにおいて可視化することで行われる。その際教師はこのライティングに対して簡単なフィードバックを行うことで、形成的評価の機会としても利用する。また各作品のディスカッションが終了した時点で、総括的評価としてエッセイの執筆を行う。スキルもしくは概念に関する振り返りについては、単元終了時、振り返りシートを用いて行う。	<input checked="" type="checkbox"/> Affirm identity—build self-esteem Value prior knowledge <input checked="" type="checkbox"/> Scaffold learning Extend learning Details: 生徒同士では、他者の意見を尊重しつつ、自身の視点を複数化することの意義を明確に指導する。また本単元の最終的な課題はエッセイの執筆であるが、ディスカッションやブレーンストーミングを兼ねた短い文章の執筆に対して適切にフィードバックを行い、スキャフォールディングを図る。

Language and learning <i>Check the boxes for any explicit language and learning connections made during the unit. For more information on the IB's approach to language and learning, please see the guide.</i>	TOK connections <i>Check the boxes for any explicit TOK connections made during the unit.</i>	CAS connections <i>Check the boxes for any explicit CAS connections. If you check any of the boxes, provide a brief note in the "details" section explaining how students engaged in CAS for this unit.</i>
<p>Activating background knowledge Scaffolding for new learning</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Acquisition of new learning through practice</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Demonstrating proficiency</p> <p>Details: 本単元では、批評的な言語使用を行うことが目標とされる。生徒のエッセイは最終試験の評価規準に準じた規準で評価される。</p>	<p>Personal and shared knowledge</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Ways of knowing</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Areas of knowledge</p> <p>The knowledge framework</p> <p>Details: 本単元は、文学という領域における知の獲得あるいは構築のプロセスに強く焦点化している。同様に、文学の探究を通して、主にテキストを扱う人文科学における真理基準に関しても生徒は一定の理解を得ることが期待される。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> Creativity Activity</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Service</p> <p>Details: 各作品に関するディスカッションが終わった後、生徒はエッセイの執筆が要求される。このエッセイは開かれた問いに基づいており、生徒には強く創造性が求められる。同様に、文学とグローバル問題との関係性を考察しつつ、社会的責任について考える機会とする。</p>

REFLECTION: Considering the planning, process and impact of the inquiry

What worked well	What didn't work well	Notes/changes/suggestions:
<p>1. 比較小論文</p> <p>・課題の性質の理解: テキストの説明と解説に終始しない批判的読解</p> <p>今回は、主に文学の修辞技法に関する問いを用い、複数の作品の比較・対比を要求するエッセイの執筆をもって総括的評価を行った。</p> <p>総括的評価課題の問い(一例)</p> <p>学習した2つの作品の中で、作者は読み手の記憶に残る効果的なクライマックスをどのようにして創り上げていますか。</p> <p>授業を通して上手くいった点としては、上記のようなテキストの批判的読解を要求する課題の性質をよく理解し、テキストを、その事実レベルだけではなく、メタレベルで理解しようと試みていた点である。事実レベルの解答、つまり、「それぞれの作品のクライマックスは何か」という説明に終始する答えは少なく、多くの生徒が、それぞれの作品における、クライマックスをより効果的に構成するための工夫や特徴に言及しつつ二作品を対比し、それぞれの作品の特徴をよく浮かび上がらせることができていた点である。興味深い解答としては、サミュエル・ベケット『ゴドーを待ちながら』の特徴を「クライマックスの不在」と理解しつつ『人形の家』と対比したものがあった。</p>	<p>1. 比較小論文</p> <p>・論述の焦点の持続、一貫した思考の構築</p> <p>総括的評価課題としてのエッセイにおいては、左記の通り優れた指摘が多数見られたものの、文学のエッセイとして見るならば、まだ発展の余地があるように見受けられた。具体的には、クライマックスの特徴を問う設問であるにもかかわらず、テキスト全体の構成・展開に触れた答えが散見された(テキストの冒頭や結末部分に関する特徴を述べることで、クライマックスへの焦点化が十分に行われていない)。</p> <p>・共通点／相違点の指摘</p> <p>IBDO言語A: 文学『ガイド』では、指示用語である「Compare and contrast(比較・対比しなさい)」が次のように定義される。「二つもしくはそれ以上の事柄や状況について、それら全てを参照しつつ、共通点と相違点を述べなさい」。共通点と相違点の双方を指摘することまでは今回は要求していない。しかし、どの点において共通しているのか、あるいはどの点において相違しているのか、観点を整理して論じることができていた答えは、限定的であった。(例えば、クライマックスにおいて、作中の緊張感が極大化する点が共通する、クライマックスにお</p>	<p>比較小論文の問いの種類について</p> <p>大まかに、次の三つの種類に大別できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文学のテーマに関わる問い(愛と変容、善悪の対立、孤独等)、 2 文学の修辞技法に関わる問い(クライマックスの役割、テキスト内の空間構成、語りの視点等) 3 文学を通じた知の獲得と構築のプロセス(TOK)に関わる問い(背景知識ほどの程度文学作品の理解を助けるか等) <p>いずれも比較・対比を行う上で特有の難しさはあるものの、特に生徒が答えづらいように見えるのは③の文学を通じた知の獲得過程を反省的に問うような問題である。テキストの内容の記述に終始し、問いに正対する記述を行っていない答案が目立つ。</p>

<p>2. 個人口述(10)(→今回はアイデアのスケッチのみ。)</p> <p>・グローバルな問題に対して、文学がどのようにアプローチするのか／その意義は何かに関する概観的な理解の獲得</p> <p>高校第1学年(Foundation Year)から第2学年(DP1)を通して、文学においてどのようなグローバルな問題の探究が可能か、ポートフォリオとして蓄積してきた。生徒は最終的にそのポートフォリオを参照しつつ、自身で適切なグローバルな問題を設定し、アウトラインを構成し、口述を行っていく。</p> <p>今回はその準備の段階であり、多くの生徒が明快な「グローバルな問題」を設定し、文学作品との有機的な連関の中で、探究の筋道を見出していた。中には、設定したグローバル問題を扱う上で最も決定的な場面を抜粋しようとする生徒も見られた。10本番は次年度2025年5月を予定しており、そこに向けて着実に学びを蓄積している様子がうかがえた。</p>	<p>いて問題が解決されるか否かが相違する、等。)</p> <p>2. 個人口述(10)</p> <p>・グローバルな問題の設定</p> <p>「グローバルな問題」をうまく言語化するための表現力がまだ十分ではない生徒が見られた。優れた発想や独創的な視点は見られるものの、文学は言葉の力を用いてグローバルな問題の探究を行うため、語彙や論理展開を支える接続語や副詞といった、日本語での表現力は不可欠と言える。学術的な表現力を高めるためにどのような指導が可能なのか考えていく必要がある。具体的には、長期休業中の特別授業等で評論文を扱う、授業で先行研究を調査する機会を増やすといった対策が考えられる。</p> <p>・グローバルな問題とテキストとの関係</p> <p>まだ準備段階ではあるため、今回は厳密には要求していないが、授業で扱ってから時間の経ったテキストの再読が不十分であるがゆえに、テキストを根拠とした文学の探究を行うための準備を要する者も散見された。</p>	
---	---	--

Transfer goals

List the transfer goals from the beginning of this unit planner.

1. 比較・対比の視点は客観性を増大しうることを理解する

内容理解だけではなく、テーマ、表現方法、テキストが与える影響といった観点から、複数のテキストを比較するための視座を得る。

2. グローバルな問題に対する、様々な学問領域の責任と限界について考察する

アイデンティティ、文化的／宗教的信念、政治・権力・正義、創造性、美、自然や環境といった幅広い領域に見出されるグローバルな問題に対して、文学や言語、歴史、数学、理科、芸術といった知の諸領域がどのようにアプローチできるのか、どのような限界や課題が存在するのかという視座を得る。

Transfer reflection

How successful were the students in achieving the transfer goals by the end of the unit?

1. 比較・対比の視点は客観性を増大しうることを理解する

生徒は、テキストを前にした時、内容の正確な理解の先にある新たなゴールを見出したように思われる。FYの時点でよく見られたのは、テキストを網羅的に説明しようとする姿勢である。もちろんこのような姿勢が「悪い」わけでは決してなく、むしろテキストを細部まで読み、内容を正確に理解することは、探究の出発点であり前提条件である。ただ、生徒がまだ十分に見ていなかったように思われるのは、その正確な理解の先にある、もう一段階高次の思考の操作である。今回の単元を通して、その重要性について確認することができた。

2. グローバルな問題に対する、様々な学問領域の責任と限界について考察する

IB教育における「指導のアプローチ」の一つとして「地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導」が挙げられるように、IB他教科においても、学習とグローバルな文脈との結びつきが問われる。文学がグローバルな問題を描くことの意義と限界について考察する視座を提供することができた点に本単元の意義がある。